

# 糖尿病患者の診断時に持つ不安の変化と受療行動への影響

岡本左和子  
公衆衛生学講座  
2017年8月18日

## 目的

- ▶ 糖尿病患者の診断時に持つ不安の：
  1. 治療過程での変化
  2. 受療行動や医学所見への影響
  3. 克服の要因の調査・検討

## 結果(1)

	サンプル数 (%)		サンプル数 (%)
回収数	99 (82.5)	世帯年収	x<300 40 (40.4)
		単位：万円	300≤x<400 13 (13.1)
性別	男 71 (71.7)		400≤x<550 13 (13.1)
	女 28 (28.3)		550≤x<700 8 (8.1)
			700≤x 13 (13.1)
居住地	奈良県 88 (88.9)		
	その他 3 (3.0)	DM罹患歴	平均値：12.8年
	欠損値 8 (8.1)	単位：年	y<5 17 (17.2)
			5≤y<10 25 (25.3)
年齢	平均値：63.4歳		10≤y<15 17 (17.2)
	44歳以下 9 (9.1)		15≤y<20 19 (19.2)
	45-54歳 11 (11.1)		20≤y 21 (21.1)
	55-64歳 27 (27.3)	HbA1c値	平均値：7.9%
	65-74歳 36 (36.4)		8%未満 62 (62.6)
	75歳以上 16 (16.1)		8%以上 36 (36.4)

## 結果(3)

HbA1c実測値

		HbA1c値
Q20-1 自分で情報を集めるか	B	-.326
	SE	.141
	p値	.023
Q32-3 診察時に落ち込むことがある	B	.353
	SE	.182
	p値	.057*
Q32-5 医師と話すのが怖い	B	.412
	SE	.191
	p値	.034
Q32-2 医師と話すとき安心できる	B	-.830
	SE	.345
	p値	.018
Q37-3 仕事や学業が身につかない	B	.429
	SE	.185
	p値	.023

単回帰分析；\* 境界有意  
1=そう思わない→4=そう思う

## 背景

- ▶ 世界中で糖尿病患者数の増加：3億5000万人以上
  - 今後20年間で倍増の見込み。
  - 糖尿病が直接の原因で年間150万人が死亡。
  - 2016年世界保健デーのテーマ「糖尿病」。
- ▶ 日本国内の糖尿病患者数も増加：2,050万人（推計）
  - 糖尿病が強く疑われる人が950万人。
  - 糖尿病の可能性が否定できない人が1,100万人。
  - 「健康日本21（第2次）」で、発症予防、重症化予防、合併症による臓器障害の予防・生命予後の改善について目標設定

## 研究方法

- ▶ 奈良県立医科大学附属病院糖尿病センターの患者 120人
- ▶ 調査方法：アンケート調査（2015年6-8月）
- ▶ がんなどの疾病、および治療方法が重篤で、どちらの疾病について回答しているのか判断がしにくいと考えられた患者は対象から外した。

診断時の感情	診断時に不安を持った	恥ずかしかった	頑張ろうと思った	
患者の傾向	病気について情報を集めるか	医師の説明で分からないことを質問できるか	受診時にDMの話を医師に言われたくない	
医師との関係性	責められているように感じる	医師と話すとき怖い	応援してもらっていると感じる	医師と話すとき安心できる
DMに対する姿勢	DMを考えると不安である	友人と疎遠になると感じる	DMのことを考えると眠れない	仕事や学業が身につかない
	食品の素材の味に気付いた	意外と運動が好きだった	診察時に落ち込む	

## 結果(2)

診断時の不安と現在の不安

	Q39-9 診断時恥ずかしいと思った			Q39-11 頑張らないといけないと思った			Q20-1 自分で情報を集めるか		
	B	SE	p値	B	SE	p値	B	SE	p値
診断時の不安	.195	.092	.037	.346	.096	.001	-	-	-
現在の不安	-	-	-	.261	.099	.010	-.224	.079	.005
	Q31-5 医師にDMのことを言われたくない			Q32-3 診察時に落ち込むことがある			Q32-5 医師と話すのが怖い		
診断時の不安	.189	.069	.008	-	-	-	.208	.081	.012
現在の不安	-	-	-	.244	.091	.009	-	-	-
	Q37-1 友人と疎遠になると感じる			Q37-2 DMのことを考えると眠れない			Q37-3 仕事や学業が身につかない		
診断時の不安	.150	.065	.023	.272	.083	.002	.273	.084	.002
現在の不安	.132	.067	.052*	.345	.080	<.001	.254	.083	.003
	Q6-1 食品の素材の味に気付いた								
診断時の不安	.314	.111	.006						
現在の不安	.222	.109	.044						

単回帰分析；1=そう思わない→4=そう思う；\*境界有意

## 結果(4)

HbA1c値：0=8%未満, 1=8%以上

	HbA1c		
	OR	CI 95%	p値
Q39-8 診断時の不安	.365	.135-.992	.048
Q37-1 友人と疎遠になると感じる	.164	.031-.882	.035

二項ロジスティック回帰分析（単回帰）

## 考察

- 診断時の不安と現在の不安ともに：
  - 「治療を頑張ろう」「食品の素材の味に気づいた」という前向きな気持ちに結びつく。
  - 一方、「友人と疎遠になる」「仕事・学業が身につかない」「眠れない」などのマイナスの影響に結びつく可能性がある。
- 診断時の不安は：
  - 「診断時に医師にDMのことを言われたくない」や「医師と話すのが怖い」という医師との否定的関係性に結びつく可能性。
- 現在の不安は：
  - 「医師と話すと落ち込む」という医師との否定的な関係性を示唆。
- HbA1c値：
  - 「自分で情報を集めようとする」前向きな姿勢を持つとか、「医師と話す」と安心できるとHbA1c値が下がる傾向。
  - 「診察時に落ち込む」「医師と話すのが怖い」「仕事や学業が身につかない」という状態では、HbA1c値が上がる。

## まとめ

- 診断時の不安と現在の不安は、患者の治療への前向きな姿勢を喚起する反面、医師との否定的な関係性につながる可能性がある。
- 医師との否定的な関係や生活面での不安は、HbA1c値を上げる傾向がある。
- 特に、患者が持つ診断時の適切な不安は、HbA1c値を下げる可能性が示唆されるため、治療過程で医師との否定的な関係性や生活面の不安に発展しないように、診断時に丁寧な対応の必要性を示唆。

## Limitations

- 奈良県立医科大学附属病院糖尿病センターでのアンケートであるため、限定した患者でサンプル数が少ない。
- 分析途中であり、考察がまだ不十分である。

ご清聴ありがとうございました。

## 謝辞

- アンケート調査のデータを利用させていただき、データの分析に当たっても臨床的なご意見をいただくなど、ご協力をいただきました奈良県立医科大学附属病院糖尿病学講座の石井均教授、毛利貴子診療助教に感謝申し上げます。
- 本発表スライドの準備には、当講座の柳生奈美さんのご協力をいただきました。